

第5学年3組 道徳科学習指導案

令和8年10月6日（火） 第5校時

- 1 主題名 受け継がれる思い 内容項目 [C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度]
関連する内容項目 [C よりよい学校生活、集団生活の充実]
- 2 ねらい 役割を終えたどんぐりピアノを残すかどうかについて、それぞれの立場や考えを多面的・多角的に考えることを通して、伝統には、それを生み出し、支え、受け継いできた人々の思いや願いが込められていることに気づき、伝統を受け継ぎ、次の世代へ受け渡していこうとする心情を育てる。
- 教材名 夢を奏で続けて「どんぐりピアノ」（宮代町教育委員会自作資料）

3 主題設定の理由

（1）ねらいや指導内容について

本主題は、内容項目 C「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」に関するものである。伝統を大切にすることは、昔から続いている物や活動をただ同じ形で残すことではなく、その背景にある人々の思いや願いに目を向け、受け継がれてきた意味を考えることである。また、学校の伝統には、よりよい学校生活を願った人々の思いや行動が重なっている。高学年の児童は、より効率的な方法や新しい方法を考えられるようになる一方、現在の便利さや負担に目が向き、物や活動が生まれた背景を十分に考えないまま、その必要性を判断することもある。そこで、「なぜ生まれたのか」「どのような思いや願いが込められているのか」という視点から、伝統を受け継ぐことの意味について考えさせたい。本時では、教材本文には描かれていない「役割を終えたどんぐりピアノを残すべきか」という判断を伴う問いをあえて設定する。児童が自分の立場をもち、多様な考えを交流することで、登場人物の心情を読み取ることにとどまらず、実用性や必要性と、そこに込められた人々の思いや願いを比較しながら、伝統について主体的、多面的・多角的に考えられるようにする。さらに、ゲストティーチャーの語りや、どんぐりピアノがその後も受け継がれてきた事実に触れることで、それまでの自分の考えを見つめ直し、伝統の背景にある人々の思いや願いに改めて目を向け、伝統を受け継ぐことの意味について考えを深められるようにする。

（2）児童の実態

（略）

（3）教材の特質や活用方法について

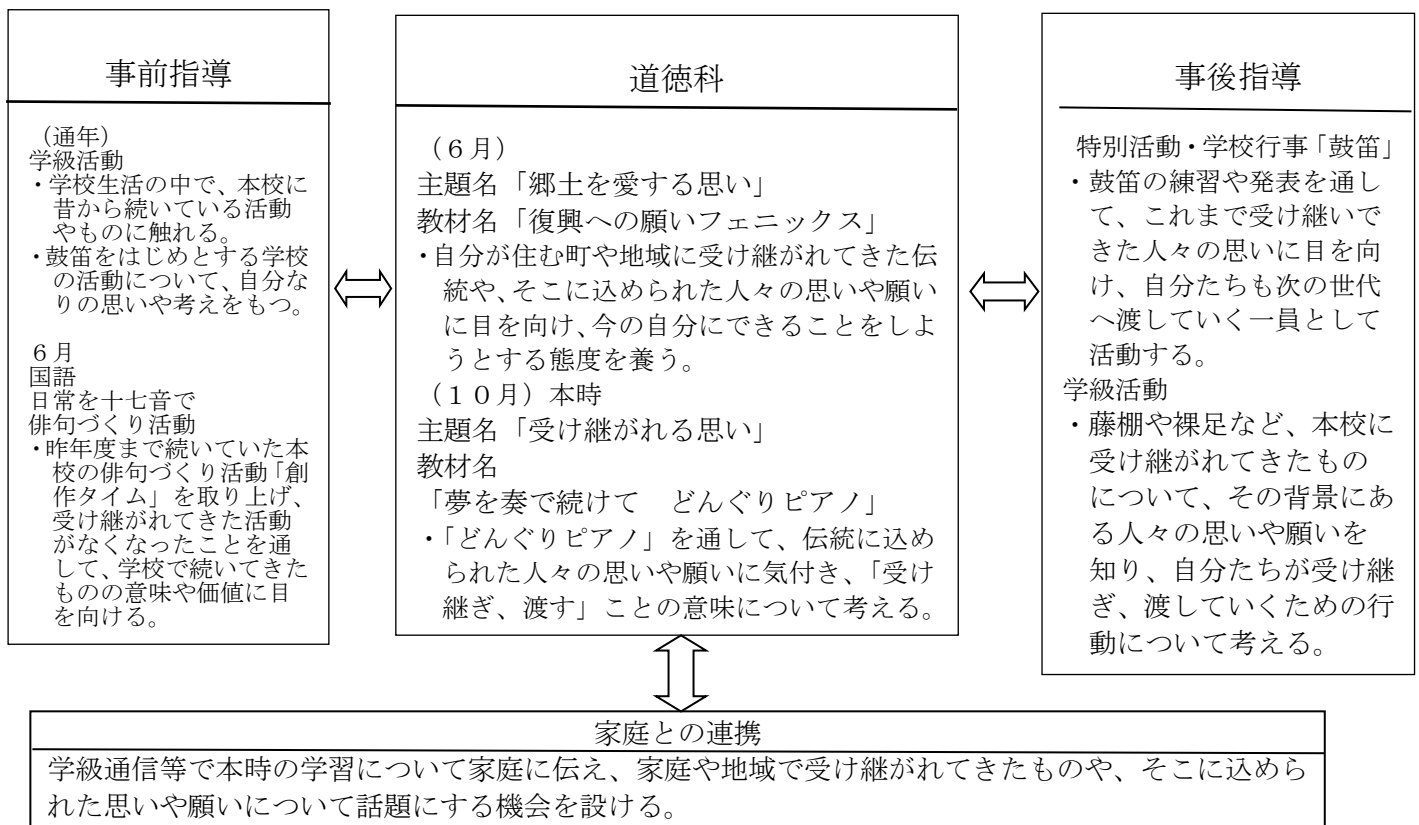
本教材は、近隣の須賀小学校に実在する「どんぐりピアノ」を題材としている。戦後間もない時代、ピアノのなかった学校にピアノを置きたいと願った子どもたちは、どんぐりなどを集めて資金を得ようとした。その熱意は教師や家庭、地域へと広がり、最終的には PTA と村の協力によってピアノの購入が実現した。こうして学校に迎えられたピアノは、長い間、須賀小学校の音楽を支え、やがてピアノとしての役割を終えた。本教材は、一台のピアノを通して、よりよい学校を願う人々の思いや願いが広がり、受け継がれていくことを捉えることのできる教材である。本時では、当時の時代背景を丁寧に押さえた上で、教材を「ピアノとしての役割を終えた」時点まで扱う。さらに、教材本文には描かれていない「役割を終えたどんぐりピアノを残すべきか」という判断を伴う問いを設定する。実用性や管理の負担、人々の思いや願いなど、多様な視点から話し合うことで、「残す・残さない」という結論ではなく、なぜこのピアノが大切にされてきたのか、その背景にある人々の思いや願いについて考えを深められるようにする。また、話合いやゲストティーチャーの語りを経た後に、どんぐりピアノが実際には残され、その後も人々によって受け継がれてきた事実を伝える。これを「残すことが正しかった」という答え合わせにする。

4 学習指導過程

段階	学習活動、主な発問	予想される児童の発言	・指導上の留意点 ☆評価の視点	時間(分)
導入	1 本校の鼓笛を通して「受け継ぐ」ことに目を向け、教材へつなげる。			3
	(1)これから始まる鼓笛の練習について、今どんなことを思っていますか。 (2)いろいろな思いがあるのに、どうして笠原小では鼓笛がずっと受け継がれてきたのでしょうか。	・練習が大変そう。 ・休み時間が減るのが嫌だ。 ・やってみたい楽器がある。 ・できるようになりたい。 ・楽しみでもある。 ・伝統だから。 ・昔からやっているから。 ・先生がやるといったから。 ・分からない。	・「やりたくない」「大変」といった思いも否定せず、児童の率直な思いを出させる。 ・鼓笛を続けるべきかどうかの話し合いにはしない。 ・「なぜ受け継がれてきたのか」という問いに答えを出さず、近隣の須賀小学校で受け継がれてきたどんぐりピアノを提示することで、教材への関心を高める。	2
	2 当時の時代背景を知り、どんぐりピアノが生まれた背景を捉える。		・具体的な資料を用いて、戦後間もない当時の生活やお金、物の価値を捉えさせ、その後の教材を考えるための土台とする。	5
	3 本時の課題を知る。			2
	「受け継ぐ」とは、どういうことなのか考えよう			
	4 教材を紙芝居で提示する。		・導入で本校の鼓笛や当時の時代背景に触れた後に本時の課題を設定することで、児童自身が「受け継ぐ」ということに問題意識をもち、教材を通して主体的に考えられるようにする。	5
	5 課題について、考え、話し合う。		・教材を紙芝居で提示することで、物語の流れや当時の様子を視覚的に捉えやすくする。	
	㊟ (1)役割を終えたどんぐりピアノを残すべきでしょうか。【分析】	〈残す〉 ・みんなで頑張って手に入れたから。 ・たくさんの人の思いが詰まっているから。 ・学校の歴史だから。 〈残さない〉 ・もう音が出ないから。 ・場所を取るから。 ・古い物を全部残すことはできない。 (その他) ・友達の話を知ると迷ってきた。 ・使えるかどうかだけでは決められないかもしれない。	・児童同士の話し合いから生まれた疑問や問い返しを大切に、児童の発言をつなぎながら話し合いを深める。また、必要に応じて補助発問を用いて見方を揺さぶり、その背景にある人々の思いや願いについて多面的・多角的に考えられるようにする。 ☆友達の考えを聞いたり、自分の考えを見つめ直したりしながら、伝統の背景にある人々の思いや願いについて、多面的・多角的に考えている。【発言・話し合いの様子】	
	㊟ ・昔からある大切なものなら、全部残した方がいいのでしょうか。(批判	・たくさんの人が頑張って手に入れたものだから残したい。 ・昔からあるというだけで、残す理由にはならないと思う。		

展 開	⑥ もしこのピアノを残さなかったら、なくなるのはピアノだけなのでしょうか。(深化) 6 須賀小学校卒業生のゲストティーチャーの話を聞き、受け継ぎ、受け渡すことについて考える。	- 頑張った子供たちの思い。 - 先生の思い。 - お金を出してくれた家族や地域の人たちの思い。	ゲストティーチャーには話を聞いてもらい、児童の考えを受けた上で、須賀小学校で実際に過ごした一人としての思いを語ってもらう。「正解」を示すのではなく、新たな視点の一つとして提示し、児童が自分の考えを見つめ直せるようにする。	3
終 末	7 学習を振り返り、自己を見つめる。 8 教師の説話を聞く。	- 自分たちは受け継ぐだけでなく、次の人へ渡す側でもある。 - そこに込められた人たちの思いを知ることも大切だと思った。	☆どんぐりピアノについて考えたことを自分の生活と結び付け、人々の思いや願いを「受け継ぎ、受け渡す」ことについて、自分との関わりで考えを深めている。【ワークシート】 人々がなぜピアノに思いを寄せ続けたのかについて、児童が思いを巡らせられるよう、余韻をもって授業を終える。	7 3

5 他の教育活動との関連



6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

友達の考えを聞いたり、自分の考えを見つめ直したりしながら、伝統の背景にある人々の思いや願いについて、多面的・多角的に考えている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

どんぐりピアノについて考えたことを自分の生活と結び付け、人々の思いや願いを「受け継ぎ、受け渡す」ことについて、自分との関わりで考えを深めている。

7 板書計画

